

詩編 139 : 1~24

マタイによる福音書 6 : 25~34

「思い悩むな」

【招詞】 申命記 6 : 4~5

【讚美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【詩編交読】 詩編 143 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 17 「聖なる主の美しさと」

【祈祷】

【聖書】 詩編 139 : 1~24、マタイによる福音書 6 : 25~34

【説教】 「思い悩むな」

<思い悩むな>

今日は、イエスさまの「山上の説教」から「思い悩むな」との御言葉を聞きます。

今日読まれた箇所には、「思い悩む」という言葉が、6回も出てきました。それはまるで、わたしたちが、いつもどれだけよく思い悩んでいるか、ということを表しているかのようです。

思い悩む。少し前の聖書の訳では、「思いわずらう」という言葉が使われていました。

まさに、わたしたちは、心配ごとや、不安によって、心を「わずらい」、病んでしまう。弱り、うなだれ、挫けてしまう。そんな日々を送っています。

25 節には、「自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな」とありました。

食ふこと、飲むこと、そして着るもののこと。生きるために必要なものが満たされない。それは、大変な危機であり、不安を覚えずにはられません。

でも、それだけではありません。わたしたちは、自分の健康も心配だし、経済的なことも心配だし、家族のことも心配、人間関係も困っている、仕事も辛い、将来のことも不安、などなど。本当に色々なことに、思い悩まされているのではないのでしょうか。

この「思い悩む」と訳されているギリシア語は、「心が裂かれる／心が分かれる」という言葉で出来ています。思い悩みは、わたしたちが、あれやこれやと心配して、心がそれぞれの悩みにもっていかれて、千々に乱れている、ということです。

でもイエスさまは、33 節でこう言われました。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」。

神の国とは、神さまのご支配のことです。神の義とは、神さまとの正しい関係に生きることです。つまり、思い悩みであちこちに分かれてしまっているあなたの心を、神さまに支配していただきなさい。あなたの心を、思い悩みに向けるのではなくて、神さまに向けなさい。そう言うておられるのです。

そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。あなたに必要なものは、すべて満たされるのだと。

<あなたがたの天の父>

では、どうやったら、わたしたちは、心を支配している思い悩みから解放されて、神さまに心を支配していただくことができるのでしょうか。

…それは、わたしたちが、神さまに確かな信頼を置くことによってです。

では、どうやったら、わたしたちは、神さまが信頼できるお方であると、信じることができるのでしょうか。どうやったら、わたしたちは、神さまが、わたしに必要なものを与えてくださることがお出来になると、確信することができるのでしょうか。

…それは、神さまが、どのようなお方であるかを、知ることによってです。

今日の箇所、イエスさまは、父なる神さまが、どのようなお方であるかを、色々な表現で教えてください。

しかも、その神さまのことを、イエスさまは、わたしたちに向かって、「あなたがたの天の父」と言ってくださいなのです。「あなたがたの天の父は、あなたがたを御自分の愛する子どもとして、見つめておられる。その、あなたがたの天の父は、このようなお方だ。だから、この方に信頼を置きなさい。だから、この方に、心を向けなさい。だから、思い悩まなくてよい」。そうイエスさまは、教えてくださいました。

<空の鳥、野の花、あなたがた>

まず 25 節には、「だから、言うておく。自分の命のことで何を食おうか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか」とあります。

命は食べ物よりも大切。体は衣服よりも大切。これはまず、わたしたちの、ここに存在する命と、体とを与えてくださっているのは、神さまである、ということです。

その、最も大切な命と体を与えてくださっている方が、それを支えるための食べ物や衣服を与えてくださらないはずがあるのか、ということです。

そして、イエスさまは、「空の鳥を見なさい」「野の花を見なさい」と言われます。

空の鳥は、「種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる」と。

鳥のような小さな存在も、神さまは顧みて、必要を与え、養い、生かしておられる。

そうであるなら、鳥よりも価値があるあなた。神に似せて造られ、神さまに応答する存在として、愛をもって造られ、子どもとされているあなたを、天の父が、養い、生かしてくださらないはずがないではないか。

また、はかない、小さい、ひと時咲くだけの野の花。そのような花でも、あれだけ美しい姿を与えられている。それは、あの栄華を極めたソロモンをさえ凌ぐと、イエスさまは仰います。

どんなに小さな存在も、そこまで神さまは顧みてくださり、その御手をもって、美しく装ってくださるのだから。さらに、大きな、大切な存在であるあなたがたには、なおさらのことではないか。それ以上のことをしてくださるに、決まっているではないか、と。

イエスさまは、天の父なる神さまにとって、わたしたちが、どれほど大きな価値ある存在か。どれほど心にかけて、どれほど愛されているか。それを教えてくださっています。

そして、鳥も、花も、あんなに小さく、あんなにはかない存在にまで、神さまは心を配り、必要を与え、養ってくださるお方なのだから。こんなに愛され、こんなに大切にされているあなたがたを、神さまが放っておかれたり、見捨てたりなさるはずがない。必要を満たしてくださることは、明らかだ。

だから、あなたがたの天の父に信頼して、思い悩むな。思い悩む必要はない、と言われるのです。

<信仰の薄い者よ>

わたしたち人間が、深刻に、潰れるまで思い悩んでしまうのは、そのような天の父なる神さまを知らないから。あるいは天の父なる神さまを、ちゃんと信頼していないからです。

イエスさまは言われます、「信仰の薄い者たちよ」。

信仰が薄い。それは、神さまへの信頼が小さい、ということです。

頼りきっていない。ゆだねきっていない。助けて欲しいと言いながら、自分の手にしている頼りないものを握りしめて離さず、差し出されている神さまの御手を掴もうとしないのです。

27 節に、「あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか」とあります。

わたしたちは、どれだけ悩んでも、どれだけ頑張っても、自分の力で、自分の思いで、自分の寿命を、一日も、一時間さえも、延ばすことは出来ません。

それなのに、どうしてあなたがたは、命を造ってくださり、体を与えてくださり、生かし、養い、装ってくださることが出来る方に頼らないのか。どうして、あなたがたの天の父が、あなたがたに必要なものを与えてくださると、信じることができないのか。信頼に足るお方であることは、十分に知らされているではないか。そうイエスさまは仰るのです。

確かにそうです。わたしたちの欠乏は、不安は、心配は、天の父なる神さまには、解決できないとでも言うのでしょうか。わたしたちの必要を、天の父なる神さまは、満たすことができないとでも言うのでしょうか。まったく神さまに対して失礼な話です。

カルヴァンという神学者は、天の父なる神さまに、それがお出来になることを信用しないのなら、「私たちは神に大きな侮辱を与えることになる」とまで言っています。

神さまの御力を、神さまのご配慮を、神さまの愛を、わたしたちは、見くびってはならないのです。

そして、31～32 節には、こうあります。「だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ」。

異邦人とは、この天の父なる神さまを、知らない人々のことです。

神さまが、命の造り主であること。愛してくださっていること。必要なものを与えてくださり、養い、守り、生かしてくださる方であること。それを知らない。

だから、食べ物、飲む物、着るもの、心配事、悩み事、そういうものを、すべて自分で準備し、満たし、何でも自分で解決しなければならない。そう考えている人々のことです。

でも、あなたがたは違う、とイエスさまは言われます。

なぜなら、イエスさまがお語りになる、この御言葉を聞いている者たちに。まさに、今ここで聞いているわたしたちに。神の御子であられるイエスさまご自身が、天の父なる神さまを教えてください、また、天の父なる神さまの、わたしたちに対する愛を、教えてください、だからです。

<イエスさまが与えられた>

さて、わたしたちが生きるために最も必要なもの。それは、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」とあったように、神の国と神の義です。神さまの救いです。

食べ物、飲み物、着るものは、当然、生きていくために必要です。でも、命を繋ぐことだけが、わたしたちが生きる、ということではありません。

わたしたちは、造り主である神さまなしには、生きられない存在です。

わたしたちが、与えられた人生を、本当に大切に、喜んで、価値あるものとして生きるというのは、造り主である神さまを知り、その神さまと共に生きることなのです。

神さまに愛されていることを知り、この存在が、価値あるものとして尊ばれていることを知り、神さまの祝福の中を生きていくこと。そして、そのように生かされているわたしたちが、互いにも、大切にし合い、愛し合い、共に生きていくこと。

それが、神さまに造られたわたしたちが歩むべき道、本当に生きる道なのです。

しかし、わたしたちは、自分の目的を達成することや、夢を叶えること。あるいは、人の役に立つことや、名を残すことなどに、生きることの意味や目的を置こうとします。

では、失敗したら、人生はおしまいなのではないでしょうか。人の役に立てなくなったら、生きる目的はなくなってしまうのでしょうか。そんなはずありません。

そこで、生きているということは、どんな状態であれ、今日、神さまが望んでくださって、命を与え、養い、守り、支えてくださっているから、生きているのです。

その神さまに心を向けて、その神さまの愛のご支配の中で、与えられた命を、精一杯生きること。神さまを仰ぎ、感謝し、祈りつつ、その恵みの関係に、今日も生きること。

そこに、その人の上に、神の国と神の義が。神さまのご支配と、神さまとの愛の関係が、実現しているのです。この地にあつてまさにそこに、神さまの御心が実現するのです。

ですから、わたしたちが、そのような神の国と神の義に、まことに生きるようになるために。何よりもまず、神さまの独り子イエスさまが、わたしたちに与えられたのです。

イエスさまは、神さまがお造りくださった目的の通りに生きることが出来ない、わたしたち。神さまに信頼せず、愛を受け取らず、その思いに背き、逆らう、わたしたちの罪を赦すために、まことの人となって、この世に来てくださいました。

そして、イエスさまは、わたしたちを、神さまと共に生きる者とするために。わたしたちの罪をすべて担い、苦しみも、悲しみも、悩みも、死も、すべてを担い、十字架に架かってくださったのです。

そうしてイエスさまは、わたしたちを罪から解放し、わたしたちを、神さまの恵みの御力によって支配してくださった。神さまに罪を犯していたわたしたちを赦し、神さまに向かって、父と呼び、子と呼ばれる、親しい、深い、愛の関係を与えてくださった。

イエスさまが、わたしたちに与えられることによって、この方によって、わたしたちには、確かに、神の国と神の義が、与えられたのです。

この救いの御業を通して、御子イエスさまの、十字架と復活のご生涯を通して、わたしたちには、天の父なる神さまの愛が、はっきりと示されています。

天の父なる神さまは、御子イエスさまの命を与えてでも、ここまでしてでも、わたしたちを罪から解放し、滅びから救い、共に生きたい、愛の交わりを築きたいと、願ってくださったのです。

一体わたしたちが、神さまに、どれほど尊ばれ、価値ある者とされていることか。

ですから、そのようにして、御子イエスさまを、わたしたちにくださったお方が。わたしたちの日々のこと。心の思い悩み。辛いこと。心配なこと。そのことを、顧みてくださらないはずがないのです。

<だから、明日のことまで思い悩むな>

だから、イエスさまは、言うてくださるのです。

「だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。

そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。あなたがたの天の父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存知である」。

わたしたちは、イエスさまによって、天の父なる神さまを知らされています。

ですから、異邦人のように、自分の力の他に、頼るものがないかのように、思い悩む必要はありません。「天におられるわたしたちの父よ」と呼んで祈る、「主の祈り」を教えられているわたしたちです。

そして、御言葉にあるように、わたしたちの天の父は、子であるわたしたちに必要なものを、わたしたち以上にご存知であられます。わたしが、これこそが必要だと、切実に思っていること以上に、本当にわたしに必要なことをご存知です。

ですから、何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい、と言われるのです。

そして、何よりもまず、神さまは、神の国と神の義を、御子イエスさまによって、与えてくださったのです。

わたしたちが、それらを求めるとき、もうそれは、イエスさまによって与えられています。罪の赦しと、神さまと共に生きる永遠の命は、わたしたちが求め、信じ、受け取りたいと願うなら、いつでも与えられるのです。

そしてわたしたちは、イエスさまを通して、神さまの愛と、救いの恵みと、その大いなる御力を知らされます。その御力に、生かされ、養われ、導かれていきます。

その中で、わたしたちは、日々の必要が備えられ、足りないものは満たされ、心配ごとは、神さまのより大きな恵みのご計画の中に置かれていることを、知っていくのです。

「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である」。そうイエスさまは言われるのです。

<その日の苦労>

ただ、これは、今日の苦労は、今日の分として、確かにある、ということです。

今日する様々な苦労の中で、わたしたちの今日の「思い悩み」が、ゼロになる、ということは、きっとないのでしょう。

それは、「思い悩み」という言葉を6回も使われたイエスさまが、きっとよくご存知です。

わたしたちは、今日も、苦労をして思い悩むし、心配をやめることは出来ないし、不安を感じる事だってあるのです。

でも、わたしたちの心は、もはや「思い悩み」に支配されない、ということです。

わたしたちの心は、神さまにご支配されているのであり、「思い悩む」にしても、この方の許で「思い悩」んでいくのです。

もし、「思い悩み」に心が支配されたなら。わたしたちはそれこそ、胸が裂けるような苦しみを覚え、不安に押し潰され、それらに耐えられず、失望、絶望へと向かうでしょう。

しかし、心が神さまに支配されているなら、わたしたちはその「思い悩み」を、神さまに訴え、神さまにお渡していくことが出来るのです。

わたしたちは、必要が満たされることを、不安が取り除かれることを、解決の道が与えられることを、わたしたちの天の父に、それが出来るお方に、求めていくことができます。

そして、明日のこと。まだわからない、未来のことは、神さまにお任せして。わたしたちを愛してくださる神さまが、きっと良いご計画を備えてくださる、ということに信頼して。「御国が来ますように。御心が行われますように」と祈る。そして、「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」と、祈っていくことが出来るのです。

…今日の詩編 139 編にはこうありました。

「主よ、あなたはわたしを究め／わたしを知っておられる。

座るのも立つのも知り／遠くからわたしの計らいを悟っておられる。

歩くのも伏すのも見分け／わたしの道にことごとく通じておられる。

わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに／主よ、あなたはすべてを知っておられる。

前からも後ろからもわたしを囲み／御手をわたしの上に置いていてくださる。」

わたしたちの天の父は、わたしを究めておられます。わたしを知っておられます。

わたし以上に、わたしのことをご存知で、心の思いも、ひと言も語らぬさきに、すべてを知っておられます。

このようなお方が、前からも後ろからもわたしを囲み、御手をわたしの上に置いていてくださるのです。

過去も、未来も、神さまに囲まれ、神さまの祝福の御手がわたしの上に置かれている。

だからわたしたちは、この生かされている今の時、信頼する天の父なる神さまに心を置いて。わたしのすべてを担い、共にいてくださるイエスさまと共にあって。「思い悩むな」との御声を聞きつつ、重荷を神さまに委ねつつ、心を慰められつつ、今日の苦勞を受け止めて、歩んでいくことが出来るのです。

【お祈り】 天の父なる神さま

日々「思い悩み」を抱え、明日のことを、将来のことを心配し、あなたを信頼しきれていない、疑い深い、信仰の薄いわたしたちをお赦してください。

しかし、あなたは御子イエスさまをわたしたちに与え、そのご支配と、罪の赦しと、親しい愛の関係を、わたしたちに与えてくださいました。あなたの愛と、御力と、恵みは、もう充分わたしたちに明らかにされています。

どうかわたしたちが、天の父なる神さまを、心からの信頼をもって頼り、重荷を御手に委ね、「思い悩み」から解放されていくことが出来ますように。

今日も、明日も、喜びのときも、苦しみのときも、あなたの祝福に囲まれており、安心して良いことを、確信させてくださいますように。

このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 4 4 7 「神のみこころは」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讚美歌】 2 8 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン